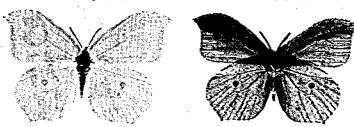


▼ひ表面

▼ひ裏面

スジボソヤマキチョウ  
(シロチョウ科)学名 *Gonepteryx aspasia*  
*niphonica* Verity

春には、いろいろの蝶が羽化はじめ、美しい姿いで人々の目を楽しませてくれます。

しかし、成虫で越冬した筋細山黄蝶は、落ち葉の間にでもぐり込んで冬眠していたせいでしょうか、翅はひどく破れ、汚れた姿で冬眠から目覚めています。

でも、ボロボロになっても母蝶には、次世代を残すために、食樹のクロウメモドキに卵を一個一個産みつける大事な役目が残っています。

この卵は、6月末頃には美しい蝶に変身し、姿を見せてくれますが、夏に入ると夏眠に入り、秋にちょっと姿をあらわすとすぐに今度は、冬眠します。ほぼ1年間の寿命のうち、姿をあらわしている期間が、数か月と短い、興味ある生態を持った蝶です。

(佐藤良幸 本町4)



歩道の除雪作業



秋葉公園の清掃

# 失業対策事業の歴史をふりかえって

第二次大戦後、日本は、国士の荒廃と産業経済の著しい弱体化の中で軍需産業が解体され、大量の離職者が発生しました。当時の失業者数は、

海外からの引揚者や復員軍人を合わせると千三百万人にも達しました。しかも、その後の急速なデフレ経済により失業者がますます増える情勢にあつたため、

産業の復興と失業者に対する一時的な就労機会の確保は急要するものでした。このため、昭和二十四年五月に緊急法が制定され、公

共事業に失業者を吸収させ、失業対策事業が

スタートしました。  
そこで昭和四十六年十月に特別措置法が制定され、失業者の年齢要件が段階的に引き下げられ、平成二年度末には対規就労者を認めないことになりました。また、昭和六十一年からは制度改善により就労者の年齢要件が段階的に引き下げられ、平成二年度末には対象者を六十五歳未満としました。これによって、最盛時全国で約三十五万人を数えた就労者数現在は約二十万人に減少。新津市では昭和二十四年から、定職化し、昭和四十五年には二十万人が就労しているという状況になりました。

事業は、平成三年三月三十一日をもってその幕を閉じました。このた

失業者を一時的に吸収し再就職までの間の労働力保全を図るという失業対策事業本来の意義とは、まったくかけ離れてしまひました。

振り返ると、失業対策事業は新津市にとって大きな役割を担ってきました。舗装新設工事は側溝工事と同時に砂利道を舗装するものですが、失業対策事業では市道舗装延長の約三分の一にあたり十二㍍を施工しました。道路整備でも砂利道の凸凹を直したり、冬期間の通勤通常用の歩道を除雪したり通行者の利便性に寄与してきました。また、市民会館をはじめとして、秋葉公園、保育所など公共施設の清掃、最近では、舗装道路が破損したときの緊急修理など、市民生活に密着した事業を行ってきました。

ただなりました。このた

め、適正なこの事業の継続が

できなくなり、四十二年間実

施してきた新津市の失業対策

事業は、平成三年三月三十一日をもってその幕を閉じました。

ただなりました。このた

め、適正なこの事業の継続が

できなくなり、四十二年間実

施してきた新津市の失業対策

</div